

Pick Up!

新ショールームの見どころをご紹介 ～サンワカンパニー～

住宅設備機器と建築資材のインターネット販売を行っている株式会社サンワカンパニーは、福岡ショールームを2022年8月に博多リバレインモール地下1階へ移転し、リニューアルオープン致しました。

博多リバレインモールには、当社以外にも住宅販売会社のショールームやインテリアショップなどのハウジング関連の店舗が多数出店しており、施設全体での一体的な集客効果が見込まれます。そのようなことから、これまで当社をご存じなかったお客さまにもショールームに立ち寄り、商品を知っていただく機会創出に繋がることを期待し、移転致しました。

レイアウトにもこだわっており、建築の構造体に対して30度の傾きを設けて壁面を配置しています。対角に伸びる視線や導線が、訪れた人に奥行と広がりを感じさせます。また、当社のタイルによって構成された壁面に混ざって、地元福岡で仕入れた自然素材が顔を覗かせます。甘木の赤土を用いた土壁、有明海で取れた古代貝灰を用いた漆喰など、地域性と歴史を感じる素材感が散りばめられています。当社の追及するミニマリズムの中に潜む奥深いマテリアリティを感じてもらえると嬉しいです。

今回のショールームでは、当社初の試みとして海外製の食洗機などの実演も可能なキッチン展示を用意しました。今後は「くらし」の観点から、料理教室などのイベントも計画しております。また、ショールームを貸しスペースとして活用いただくことも可能ですので、お気軽にご相談ください。



サンワカンパニー 福岡ショールーム

住所:福岡市博多区下川端町3-1
博多リバレインモールB1F
TEL:092-283-3512(担当:藤川翔太)
営業時間:10:00～17:00(休日:年末年始、夏期休業など)



NEWS!

九州沖縄事務局からのお知らせ

今年はいままで以上に「九州の一体感」を実現する!

今年から例会の運用を変更いたしました!3ヶ月に一度開催している各支部での例会と、福岡で開催している「九州沖縄部会」の日程を基本的に同一日とする事で、活発化を目指します。同一日に開催する「九州沖縄部会」を2部制とし、前半は福岡が主生活する全体への情報共有の場とし、後半は支部毎に議題を共有する独自の会合とします。ただし、各支部間のリアルな人的交流も重要ですので、

で、ゲストトークをより活発化したり6役が参加するWGの会場を不定期で各支部開催にするなど、今後も濃厚な交流が継続できるようにします。

他支部のゲストを招いた支部例会は、協議会の大きな目的である「横のつながり」の原点であるためこれまで通り実施します。RBSやEXPOなど、支部独自のイベント日程についても他支部と被らないよう調整しzoomなども活用して「オール九州・沖縄」の視点で盛り上げていきます♪



リノベーション協議会 九州沖縄部会 事務局 原文美

メールリスト登録先の変更方法

年度が変わるこの時期に多いのが「メールリストの登録先を変更したい」というご相談です。が、実はリストに登録されているアドレスの元は「協議会のサイト内」にあるんです。この機会に、具体的な変更方法をお知らせさせていただきますので、必要な方は参考にしてください。



協議会サイトにログイン後、[会員情報]内の[登録情報]をクリックしてください。その中にある「連絡担当者」という項目内のメールアドレスが、事務局からの一斉連絡のアドレスとなっています。

また、メーカーさんなど九州沖縄以外の本拠地で協議会に加盟されている方へは、今後はお知らせのメールを上記とは別に一斉送信させて頂く予定です。当該企業の方には事務局(または株式会社はびりの)より、年に一度エリア内の担当者様の情報をお聞きしますので、ご協力をよろしく願います。

6月から9月のスケジュール

- 6月 6日(火) 九州沖縄部会WG
- 6月20日(火) 九州沖縄部会例会兼各支部例会(全支部合同)



九州沖縄部会 (2022)

午後4時より 会場:博多バスターミナル貸ホール
講演テーマ:「美」を意識した買取再販成長術(仮)
講師:古野秀一、杉佳亮(有限会社ひまわり)

- 6月27日(火) 熊本RBS(リノベーションセミナー)
- 7月 4日(火) 九州沖縄部会WG
- 8月 1日(火) 九州沖縄部会WG
- 8月22日(火) メーカー工場視察 予定
- 9月 5日(火) 九州沖縄部会WG
- 9月 7日(木) 沖縄RBS(リノベーションセミナー) 予定



沖縄リノベーションセミナー (2022)

九州沖縄部会WGは、毎月アポロ計画で開催しています。6役を中心に開催していますが、どなたでも参加可能です。加盟社に共有したいことや相談したいことなどがあれば、お気軽に事務局の原までご連絡ください。



Renovation Times 一まるごと九州・沖縄 Vol.01 2023年5月号

発行 一般社団法人リノベーション協議会 九州沖縄エリア部会
(エリア内正会員 70社 / 賛助会員 21社 / 2023.5.9現在)

発行人 馬越重治(エス・コンセプト) 編集人 山崎大亮(はびりの)、原文美(ハラプロ)
制作 吉田千裕(はびりの) メール info@hara23.jp
発行日 2023年5月10日

Renovation Timesでは、リノベーション協議会に参加されている各社の取り組みを積極的にご紹介しています。掲載をご希望の方は、お気軽に上記編集人までご連絡ください。【次回の発行は8月です】

一まるごと九州・沖縄

Renovation Times

VOL.01
2023.05



かえる。くらし。すまい。リノベーション協議会



買取再販に取り組んで45年の古野社長が、なぜいま買取再販のスキルアップ講座をスタートするのか

同業者でも参加可能なスキルアップ講座を始めた理由

不動産と建築はかなり違いがあって、ほとんどの会社では融合していないんです。双方が、双方に対して知識が足りません。それでも、これからは新築ではなくリノベーションの時代になってくるわけですから、もっと融合していかないといけない。その融合には知識と経験が必要です。

私は45年近くこの仕事に関わっていて、仕入れは競売物件が中心でしたが、近年は宅建業者仲介の物件仕入れが急増しています。いまでも仕入れ物件の査定は私の担当ですが、20年ほど前からスタッフを育成し、現在ではオールドギアと言うブランドの元、それぞれ独立した法人代表者がプロデューサーとして当社とダブルネームで仕事をしています。

それぞれのプロデューサーが仕入れからデザイン、販売までを各自が代表を務める会社で行っており、いつもみんなの才能にワクワクしています。毎日がエキサイティングです。自分の才能に限界があることを知っているからこそ、プロデューサーの成長が本当に嬉しいんです。

▶オールドギアブランドを支える4人のプロデューサー



杉佳亮
株式会社V10
代表取締役



高田敏彦
有限会社サン・ドリーム
代表取締役



杉一美
株式会社マープル
代表取締役



西山みよこ
株式会社マープル
取締役

45年前から、北九州を中心に独自の買取再販で成長を続けているオールドギア(有限会社ひまわり)。不動産と建築に長く携わるプロとして、リノベーション業界の成長につながる人材育成を目指す無料講座をスタートした。古野社長が目指す「世界にひとつ」の文化的暮らしと、これからのビジネス戦略をインタビューした。



まちなかロッチ #Light is poured-光注ぐ-

私は絵や建築が好きなんですけど、どうしても既存の発想から逃れられないんです。人間の能力っていうのは、自分がいくら凄く思っているけど、より能力が高い人がいるんです。だからこそデザイナーや大工さんなど、優秀な人たちと一緒に仕事をすることで、よりクオリティの高い仕事ができるようになるんです。大切なことはお互いを認め合うこと。モノづくりに携わる人は、みんなアーティストなんです。だからこそ、新しい才能と出会うためにもこういう講座が役立つと考えています。

TOPIC! 各エリアの取り組みとお知らせ

〰️ 沖縄支部

RC住宅と亜熱帯地域に配慮したリノベ

古民家を除いて、沖縄の既存住宅はRC造の家がほとんどです。それはシロアリや台風被害といった亜熱帯地域特有の環境や、戦後アメリカ主体の家づくりが行われたから。

リノベ市場は…と言うと、県民所得が低いことや不動産価格の高騰から、マンションも含めて「中古住宅を購入してリノベする」よりも、親が所有する建物（実家）を活用する「2世帯リノベ」を検討されるお客さまが多くいらっしゃいます。

そのため、建物の設計や施工、法規といった知識だけでなく、相続や贈与といった税金関係の知識も必要なんです。また、お客さまが憧れるインテリア建材が高湿多湿な地域特性からおすめしにくいことも多いため、資材に対する知識も不可欠です。

沖縄のリノベ会社には、お客さまの叶えたいデザインを実現する力はもちろん、2世帯家族の暮らしを総合的に考慮した提案が必要とされているようです。



沖縄支部長
德里政俊
(アーキラボ ラフィット)

〰️ 宮崎からの便り

地域資源が受け継がれる社会

地元である宮崎県日南市に戻り、武家屋敷や石垣が残る小さな城下町の中に会社を創業し6年が経ちます。空間をつくる手法として、新築だけでなくリノベーションの価値も高まり、弊社でも新築より改修案件が多くなりました。

そんな中、私たちはクライアントの課題に向き合うだけでなく、自ら地域の課題に向き合うプレーヤーとしての活動も行っています。1つ目は城下町の重要伝統的建造物群保存地区内の古民家を購入し、改修設計から事業プロデュースまで自社で一貫して行った「古民家一棟貸しの無人宿・PAAK HOTEL 犀」と、2つ目は解体される建物から使える物を引き取って倉庫でストックし、月に一回だけ開放する「古物のリサイクルショップ・PAAK STOCK」です。



PAAK HOTEL 犀 : <https://paakhotel-sai.jp/>



PAAK STOCK : <https://paak-design.co.jp/stock/>



鬼束準三
(パーク・デザイン)

〰️ 鹿児島支部

なぜ南国鹿児島の男が断熱に目覚めたのか？

「南国鹿児島に断熱は不要でしょ？」という間違った常識が、長らく浸透していた鹿児島県。

全国的に見ると、確かに冬場でも平均気温は高いが、これは日中の気温が高くなるため。朝の最低気温は氷点下になることもあり、時には雪が降る日もある。この朝晩寒くて、昼温かい特性もあり「ヒートショック傷病率全国6位」という残念な結果につながっている。私自身も、無断熱のマンションの日当たりが悪い寝室で凍えた経験を持つ。

そんな暮らしの中で「どんなにオシャレでも、部屋が不快であれば意味がない。性能向上こそ快適な暮らしにつながる！」という思いが日々強くなり、デザインが話題となりやすいリノベーション業界であえて断熱リノベに挑戦した。

当初は「鹿児島で断熱なんて」と鼻で笑われる取り組みであったが、ROYでの受賞をきっかけにいまでは全国的に「あたりまえ」となっている。

【断熱+デザイン = 快適な暮らし】をもっと世に広げるために「鹿児島の断熱おじさん」はこれから挑戦を続けるのであった。



鹿児島支部長
大城仁
(大城)

〰️ 大分からの便り

大分で増加する「移住 + 店舗付住宅」

由布市にあるクラシカは、次世代の豊かさを創るクリエイティブカンパニーとして「デザイン、建築、不動産」を通じて、これからの生き方を具現化することをミッションにしています。

起業の相談を多数受けていることから、住宅だけでなく店舗事例も多いのが特徴です。昨年度より、大分県の空き家マッチングチームの一員として、県外からの移住希望者のヒアリングを行い、チームで協力しながら物件をマッチングさせる事業にも着手しました。

物件の掘り起こしや移住希望者の地域への定着など課題は山積みですが、リノベを伴う「移住+店舗付住宅」のご相談が増えています。マンションリノベではzoom可能な書斎がスタンダードになっているように、時代の変化に合わせて「暮らし方」もこれまでと違った文脈が生まれていると思います。

店舗が併設しやすい物件が注目を集め始めていることも、その一端です。社社の向かう方向性も、ますます明確になっていると感じています。



除村美保
(クラシカ)



産学連携プロジェクト第23弾 フレーム・ハウス

日本を代表する画家とのコラボが目指す社会

日本を代表する日本画家の作品を元にしたプロジェクトがスタートします。本当に素晴らしい作家さんたちとご縁ができて、これから世界に広がるビジネスにしたいと思っています。ワクワクしています。リノベーションというビジネスに関わる私たちは、美しさというものにもっと興味を持つべきです。実際に、インバウンドのお客さまたちに日本画はとても評価されています。ただし、一流じゃないと通じないんです。

私たちは「誰でもできる仕事」には取り組んでいません。当社にしかできない仕事、つまり会社をブランド化することが大切なんです。ブランド化することで利益を上げる。もちろん、山あり谷ありで失敗もありましたが、この考え方で順調に利益を上げています。だから、銀行の信用も上々ですよ（笑）

リノベーション協議会に伝えたいこと

これまで、当社もROYで何度か賞をいただいているのですが、その時の表彰状や盾が正直簡素に思えてしまいました。年々全国で応募者が増える中で、アワードの魅力を高めるためにも「こだわり」や「美」をもっと大切にすべきです。これが一番伝えたいことかな。

なにより、人材の育成には時間がかかるけれど、やはり知識と経験がある人から学ばないといけない。



東京藝術大学・日本画第三研究室とコラボレーションした「Artctuary® Wall Paper」プロジェクト。日本の美が、日々の暮らしに溶け込む企画が進捗中。心の豊かさが求められる時代にマッチした提案が、会社のブランド力を高めている。

不動産畑の人は、もっと建築を。建築畑の人は、もっと不動産を学ばないといけない。その育成の一つの方法として一流同士のコラボがある訳だし、必要があればお金を払って学ぶ機会があってもいい訳です。知識を得るためにコラボする。みんなが利益を得なければいけません。リノベーション協議会を通じて、こういった相互成長がより進むといいですね。

私自身も、これまで以上にリアルなビジネスのつながりを広げられたらと感じています。例えば

Artctuary®(アートクチュアリ) 日本画プロジェクトのクロスインバウンド向けのホテルで採用される際は、各地のデザイン会社や工務店としっかりパートナーシップを結んで取り組みたい。もちろん、買取再販のパートナーとして当社とコラボすることがあってもいいと思います。

まだお話しできない企画も色々動いているのですが、リノベーション協議会の皆さんとも一緒に取り組みができる日を楽しみにしています。

先達に学ぶ

〈インタビュー〉
リノベーション協議会
九州沖縄部会 広報
山崎大亮(株式会社はびり)



中古物件の「価値向上」に取り組まれている古野社長へのインタビューでしたが、不動産と建築という2つの業界がいまだに融合しないことへの葛藤を感じました。お互いをもっと相手を理解し、知識と経験をつけていかなないとお客さまの後塵を拝することになります。記憶に残ったキーワードが「独り占めしない=コラボの重要性」です。ものづくりに携わる者はアーティストであり、お互いを作家として尊重し合うべきである。その結果、いい仕事ができるし、お客さまにも喜んでいただける。そして、きちんと利益を得る。古野社長の言葉は当然なのですが、それを実行し続けることの難しさもまた然りです。業界全体がさらに成長するためには、これまで以上に不動産と建築業界の垣根が低くなることが重要だと感じました。6月20日の合同例会での講演会も楽しみです！

Column

リノベーション協議会の意義

九州沖縄部会では、毎年2月に支部長会を行っています。この何年かはオンライン併用の会議となっていました。今年も久しぶりに参加者全員がリアル参加できました。色々な意見交換ができ、非常に有意義だったと思います。

その中で感じたことといえば、メンバー間の交流が様々な勉強になる機会となっていること、そしてコラボレーションできる仲間と出会う場となっていること。これは様々な業種の会員がいることのひとつのメリットであり、会員によってそれぞれ違ったメリットを感じることができればい

いと思います。

リノベーション協議会も今年で15年目を迎えます。リノベーションを取り巻く環境も、リノベーションという言葉の意味合いも変化してきています。こういった変化に対して私たちも変化し続けることが大事になっています。なので、協議会の運営方法も変化していきます。この変化によって、会員の皆さまがひとつでも多くのメリットを感じることができればいいなと思っています。

まずは部会や支部会の運営方法、そして皆さまに色々な情報を伝える手段としてこの「リノベタイムズ」をつくることになりました。こんな変化が欲しいというご意見、お待ちしております。



リノベーション協議会
理事
馬越重治